

聖風

せいふう

2019年9月号

●発行責任者/院長 森下剛久 ●編集/企画広報室 ●編集協力/プロジェクトリンク事務局

社会福祉法人聖霊会
聖霊病院

〒466-8633 名古屋市昭和区川名山町56番地
TEL 052-832-1181
<http://www.seirei-hospital.org/>

08



HOT
NEWS

地域住民の皆さんのための病院は どうあるべきか。

理事会(2019年7月)で理事長に選出された平林憲之と申します。名古屋第二赤十字病院内科に25年ほど勤務し、岡崎市民病院、岡崎北斗病院に合わせて14年を過ごし、また杣中に帰ってきました。ずっと聖霊病院の近くに居住しています。

私たちの聖霊病院は、第二次世界大戦後の混乱期の1945年以来、小さな移転を挟んでこの地で、カトリック精神の愛と奉仕の心をもって医療活動を続けてきました。

この間に世の中は豊かになり、医療技術も目覚ましく進歩し医療のありようは大きく変わってきました。

しかし、いかに技術が進歩しても医療の根本精神は病める人への思いやりにあることに変わりはありません。精いっぱい愛情を持って、持てるあらゆる技術を施すという医療人の心構えにあると思っています。

住民の皆さんにいつそう信頼していただける病院作りが私たちの第一の目標です。この地域の患者さんの命と暮

らしを守るということを最優先事項として位置づけて、今後の病院活動を発展させてゆきたいと考えております。



理事長
平林憲之

略歴

1965年3月愛知県立旭丘高校卒業、
1971年3月名古屋大学医学部卒業、
専攻血液内科学



院長 Message of the hospital superintendent メッセージ

令和元年9月
病院長 森下剛久

カトリック病院として

医療機関という点が線で結ばれるという網目構造では隙間が多く、多種多様な患者さんのニーズに応えきれない。聖霊病院がそのような隙間を補完する機能を担うことにより地域医療・介護を「面」で支えることができるの

ではないかと考えます。「補完する」という使命は決して容易なことではありません。その遂行をカトリック病院としての理念である「愛と奉仕」に拠り、慈しみの心が支えます。

病気の基礎知識

自覚症状は少ないが、悪化すると神経障害、網膜症、腎症など重篤な合併症の引き金に。

血糖値が高い状態が続き、血管に悪影響を及ぼします。

糖尿病は、インスリン(血中の糖を体内に取り込むホルモン)が正常に分泌・機能しないことで、高血糖状態が続き、全身の血管に悪影響を及ぼす病気です。糖尿病は1型と2型に分かれますが、患者総数の9割以上は、遺伝因子と、過食や運動不足、肥満などの生活因子によって引き起こされる2型糖尿病に分類されます。糖尿病で特に危険なのは合併症です。高血糖状態が続くと、血管が集中する神経や目の網膜、腎臓などに悪影響が出始め、神経障害、網膜症、腎症といったいわゆる「三大合併症」の発症リスクが高まり、最悪の場合、失明、透析、手足の切断などに至るケースもあります。また、脳梗塞や心筋梗塞といった命に関わる疾患の発症率も高くなります。



症状が現れにくく多くは健診で見つかります。

糖尿病は非常に自覚症状の少ない疾患です。進行すると、喉の渇きや多尿、足の痺れ、食べているのに体重が減少するといった症状が現れますが、初期の段階ではほとんど症状は出ません。そのため、大半の患者さんは健康診断の血液検査などがきっかけで発見されます。糖尿病が疑われた場合には、改めて血液検査を行い、通常時の血糖値、空腹時(10時間以上の絶飲食)の血糖値、慢性的な高血糖の指標であるヘモグロビンA1cの数値などを複合して診断を行います。それらの結果だけでは判断がつかないような場合には、ブドウ糖入りの水を飲んでその前後の血糖値を測る検査(負荷試験)を行います。



内科医長メッセージ

個々の患者さんに合わせたオーダーメイドの診療を提供しています。



内科医長
(日本糖尿病学会専門医)
熊谷尚子

当院では、専門医や療養指導士、慢性疾患看護専門看護師を中心に、糖尿病の専門的な診療を提供しています。最新の治療薬や測定器などの導入も進めていますので、患者さんの生活に即したオーダーメイドの治療が可能です。また、ご高齢の患者さんなど、ご自身で服薬管理や食事療養を行うのが難しい場合には、血糖値を落ち着かせるためのコントロール入院も行っています。

糖尿病の治療はご自宅に帰ってからが本番です。そのため、必要であればご家族とも相談しながら、個々の生活に合わせた治療を組み立て、患者さんのモチベーションを維持しやすい方法を一緒に考えることを大切にしています。まずは健康診断などでご自身の状態を知ることが第一歩です。そこで血糖値が高いと言われた場合には、たとえ軽度でも、まずは当院を受診いただければと思います。

治療の 基礎知識

血糖値をコントロールし、
合併症の発症を抑えれば、
寿命を全うすることも可能です。

薬の進化が可能にする オーダーメイド治療。

糖尿病は、初期段階であれば、減量などで正常な血糖値に戻ることもありますが、基本的には治る疾患ではありません。そのため、血糖値をコントロールし、合併症を予防して、病気と上手につき合っていくことになります。コントロールを正しく行えば、健常者と同じように人生を全うすることも可能です。糖尿病の治療では、食事療法、運動療法、薬物療法が中心となります。インスリンの分泌が枯渇する1型の場合は、インスリン注射が基本となりますが、2型の場合は、重症度、年齢や生活スタイルなどを考慮して治療方法を決定します。近年は治療薬の進化・多様化で、これまで以上に個々に合わせたオーダーメイドの治療が可能になっています。



どれだけ治療が進化しても 大切なのは予防と早期発見。



最近では、血糖測定器についても進化が加速しています。その一つがフラッシュグルコースモニタリングと

呼ばれるもので、上腕に500円玉程度のセンサーを取りつくと、2週間、専用リーダーをかざすだけで血糖値の流れを確認できます。生活のなかでどのように血糖値が変化するのかを詳しく把握し、その傾向を理解することで、治療に役立てることが可能です。ただ、いくら治療薬や機器が進化しても、予防・早期発見が何より大切であることは変わりません。まずは食生活の改善や適度な運動を心がけることで、糖尿病の罹患や進行を防ぐとともに、定期的に健診を受け、できるだけ早い段階から治療を開始することが重要です。

患者さんの生活をしっかり把握し やる気を促すようにサポートします。



慢性疾患看護
専門看護師
上野聡子

糖尿病治療においては、患者さん自身が「やろう」と思うことが大切です。そのため、看護師は、患者さんに身体の状態を正しく理解してもらうとともに、生活環境や希望などに配慮しながら、「これならできそう」と思えるものを、何か1つでも持ち帰っていただけるような支援を心がけています。

Talk
01

多様化する糖尿病薬の 安心・安全な使用を守ります。



副薬局長
北川禎二

私たち薬剤師は、医師の処方に対するダブルチェックや、患者さんへの服薬指導などを通じ、糖尿病治療薬が適正に使用され、安心・安全に治療を行えるよう支援しています。最近では薬が多様化し、高齢患者さんの服薬管理が難しくなっていますので、できるだけ丁寧に細やかな説明・支援を心がけています。

Talk
02

病院からのお知らせ

地域医療連携交流会のご報告

2019年7月13日土曜日、当院において「地域医療連携交流会」を開催しました。これは、地域の医療関係者と顔の見える関係を構築することを目的としています。内容は、地域医療連携センターの活動報告、各部長医師による診療科の紹介、そして、当院消化器内科医師による「大腸CT検査」の特別講演でした。大腸CT検査とは、大腸カメラを使わない新しい検査で、大腸を炭酸ガスで膨らませ、CT装置で大腸の中を観察することで、比較的楽に、また安全に大腸を調べることができる検査です。その後は、参加者全員で意見交換会を行い閉会となりました。今回は初の企画でしたが、院内外から105名の参加があり、「今後も参加したい」との声も多く聞かれ盛況に終えることができました。今後も、地域の皆さまが住み慣れた地域で医療は勿論のこと、療養や生活を維持できるように、医療従事者間の連携を推進していきたいと思っております。

地域医療連携センター長 古城敦子



新副院長 藤本正夫より就任のご挨拶

私の専門は消化器内科です。よろしくお願いいたします。当院の始まりは1945年10月開設の聖霊診療所です。戦災で人も物も無い悲惨な状況下でした。現在、医療環境は変化し病院間の役割分担と連携が求められています。大学病院や名古屋第二赤十字病院は、広域にわたり高密度医療を担う「高度急性期病院」です。聖霊病院は、地域に密着し一般急性期と回復期医療を担う「急性期多機能病院」です。そして地域医療連携が両者を繋ぎます。まずは聖霊病院においでください。これまでのように、これからも、

当院は常に皆さまの信頼できる隣人です。ご挨拶の最後は私の専門から。肝臓は沈黙の臓器といわれます。病気が進行していても症状に乏しいからです。皆さん、B型、C型肝炎検査はお済みですか？ 検診の異常値を放置していませんか？ 大量飲酒やサプリメントは要注意です。心配な方、いつでもご相談ください。

専門領域 消化器内科肝・胆・膵領域



新任医師紹介

当院は、2019年5月16日に内科医として常勤医師1名を迎えました。

今後もより一層、地域医療に貢献していきたいと思っております。

内科

重松壮志

(令和元年5月16日～)



第8回 聖霊病院地域公開講座

日時 2019年11月30日(土) 14時～15時30分

会場 イオン八事4階 G.Gイベントホール

講演
1

便でわかるカラダのこと
～下痢と便秘の生理とコントロール～

演者 第一外科部長 江口武彦



講演
2

下剤だって十剤十色

演者 薬剤師 富田祐作



お問い合わせ先

地域医療連携センター 052-832-1181(代)

どなたでも
ご参加いただけます。